



令和 7 年 2 月 20 日

外科医の診療体制維持のために必要な待遇改善について

～広島大学病院の対応～

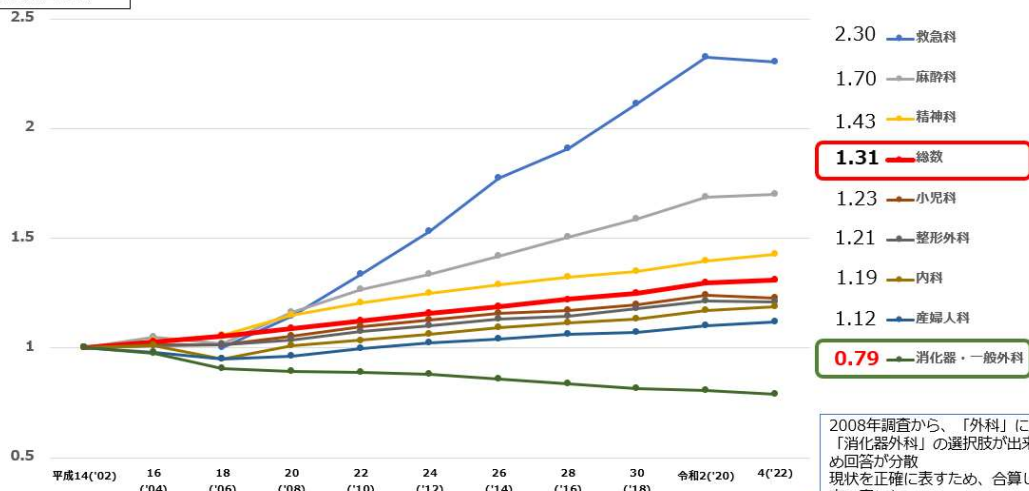
昨今、全国的に消化器外科・一般外科医師数の減少が診療体制に大きな影響を及ぼすことが懸念され、医療偏在が大きな社会問題となっている。

広島県唯一の医育機関である広島大学病院においても、この傾向は明らかであり、将来的にも更に深刻化することが懸念され、消化器外科疾患等の診療に支障をきたすことが想定されている。また、大学病院では高度な技術が求められ、長時間の手術や術後管理に対応する必要があるにもかかわらず、特に若手医師の給与が他の病院と比べて非常に低いことが「外科離れ」の要因として挙げられる。結果、待遇の良い民間病院や都市部の医療機関へと医師が流出し、大学病院で外科を志す若手医師が減少するという悪循環が加速している。このことから、消化器外科・一般外科に所属する若手の医科診療医に対し、広島医療圏域及び広島大学病院の診療体制維持のため待遇改善（現行の約 1.3 倍）を講じるものである。

～日本消化器外科学会HPより～

厚生労働省「主たる診療科別にみた医療施設に従事する医師数」より
本学会が作成した診療科別医師数推移グラフ

平成14年を1.0とした場合の
わが国の診療科別医師数



消化器・一般外科：「16.外科」、「20.気管食道外科」、「21.消化器外科(胃腸外科)」、「23.肛門外科」の合算
内科：「1.内科」、「2.呼吸器内科」、「3.循環器内科」、「4.消化器内科(胃腸科)」、「5.腎臓内科」、「6.脳神経内科」、「7.糖尿病内科」、「8.血液内科」の合算
産婦人科：「31.産婦人科」、「32.産科」、「33.婦人科」の合算
救急科は平成18年を1.0とした。

【お問い合わせ先】

病院運営支援部総務グループ 持田 謙二
TEL:082-257-5418 FAX:082-257-5087